

平成24年4月19日
於
府中市立教育センター

平成24年第4回

府中市教育委員会定例会会議録

府中市教育委員会

平成24年第4回府中市教育委員会定例会会議録

- 1 開 会 平成24年4月19日(木)
午後3時00分
閉 会 平成24年4月19日(木)
午後4時41分
- 2 会議録署名員
委 員 齋 藤 裕 吉
委 員 糸 満 純一郎
- 3 出席委員
委員長 久 芳 美恵子 委員長職務代理者 崎 山 弘
委 員 北 島 章 雄 委 員 齋 藤 裕 吉
教育長 糸 満 純一郎
- 4 欠席委員
な し
- 5 出席説明員
教育部長 吉 野 寿 一 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史
教育部副参事兼指導室長 小 椋 孝 町 田 昌 敬
総務課長 澁 谷 智 文化振興課長 酒 井 利 彦
総務課長補佐兼学校耐震化等推進担当副主幹 月 岡 敏 浩 ふるさと文化財課長 江 口 桂
学務保健課長 中 村 孝 一 ふるさと文化財課長補佐 谷 本 耕 一
学務保健課長補佐 市 川 直 次 生涯学習推進担当副主幹 茂 木 孝 之
給食担当副主幹 須 恵 正 之 図書館長 佐々木 政 彦
指導室長補佐 桑 田 浩 図書館長補佐 坪 井 茂 美
統括指導主事 瀧 島 和 則 美術館副館長 山 村 仁 志
指導主事 山 本 勝 敏
指導主事 鳥 居 夕 子
- 6 教育委員会事務局出席者
総務課係長 熊 坂 奈 美
総務課主任 山 本 正 芳

議 事 日 程

第1 会議録署名員選定について

第2 会期決定について

第3 議 案

第16号議案

臨時代理による処理の承認を求めることについて
(府中市教育委員会職員の人事異動について)

第17号議案

臨時代理による処理の承認を求めることについて
(府中市立学校教職員の人事異動について)

第4 報告・連絡

- (1) 平成24年度府中市給付及び貸付奨学金認定状況について
- (2) 平成24年度児童・生徒数について
- (3) 平成24年度幼・小・中教育課程届の受理状況について
- (4) 国司館と家康御殿整備活用検討懇談会からの提言について
- (5) 平成24年度府中市立ふるさと府中歴史館の臨時開館日について
- (6) くらやみ祭展の開催について
- (7) 郷土の森博物館企画展「武蔵府中の板碑一石に刻まれた中世」について
- (8) 郷土の森博物館開館25周年記念企画展
「府中メモリアル～記念品から見た地域の歴史～」について
- (9) 「宇宙の日」記念全国小★中学生作文絵画コンテスト作品大募集」について
- (10) 府中市生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定会議委員の変更について
- (11) 平成24年度憲法講演会について
- (12) 平成24年度府中市立小中学校美術鑑賞教室の実施について
- (13) 子ども読書の日について

第5 その他

第6 教育委員報告

午後3時00分開会

○委員長（久芳美恵子君） ただいまより、平成24年第4回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 本日の会議録署名員は、齋藤委員と糸満委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

○委員長（久芳美恵子君） 本日、傍聴希望の方がいらっしゃいます。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

では、よろしくをお願いいたします。

傍聴の方に申し上げます。本日の第16号議案、第17号議案及び報告・連絡（10）につきましては、資料に個人情報等の記載がありますので、資料の配布を省略させていただいております。皆様には議案のかがみのみでお配りしておりますことを、ご承知おきください。

_____ ◇ _____

◎第16号議案 臨時代理による処理の承認を求めることについて
（府中市教育委員会職員の人事異動について）

◎第17号議案 臨時代理による処理の承認を求めることについて
（府中市立学校教職員の人事異動について）

○委員長（久芳美恵子君） それでは議案の審議に入ります。第16号議案・第17号議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○委員長（久芳美恵子君） 説明をお願いいたします。

○総務課長（澁谷 智君） それでは第16号議案「臨時代理による処理の承認を求めることについて（府中市教育委員会職員の人事異動について）」及び第17号議案「臨時代理による処理の承認を求めることについて（府中市立学校教職員の人事異動について）」を一括してご説明いたします。

いずれの議案につきましても、府中市教育委員会の権限委任に関する規則第6条に定める臨時代理の規定に基づき処理をした内容につきまして、ご報告するものでございます。

まず、第16号議案、教育委員会職員の人事異動につきましては、3月の教育委員会におきまして、係長級以上の職員の人事異動についてご承認をいただいておりますことから、今回、臨時代理のご報告をさせていただくのは、前回、その配属先までお示しすることができませんでした係員級職員の定期人事異動をその範囲としてございます。係員級職員につきましては、学校間の異動等の部内異動をした職員につきましても、合わせて報告をさせていただくものでございます。なお、添付の議案資料につきましては、係長級以上の職員を含む教育委員会全体の人事異動名簿となっておりますので、よろしくをお願いいたします。

次に第17号議案、市立学校教職員の人事異動でございますが、こちらにつきましても2月の教育委員会において、校長及び副校長の任命内申のご承認をいただいておりますことから、

今回、臨時代理の報告をさせていただくのは、校長及び副校長を除く教職員の定期人事異動をその範囲としております。なお、添付の議案資料につきましては、校長及び副校長を含む全体の人事異動名簿となっておりますので、よろしくお願いいたします。

両議案ともに定期人事異動を臨時代理により処理したことをご報告し、承認をお願いするものでございます。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。ご説明いただきましたが、いずれも人事異動の件でございます。何かご質問ございますでしょうか。またはご意見などはいかがでしょう。

もう4月に入っておりますので、皆様それぞれ新しい部署でお仕事をいらっしゃるというところでございますが。特に反対のご意見がないようでしたら、お諮りいたします。

第16号議案「臨時代理による処理の承認を求めることについて（府中市教育委員会職員の人事異動について）」及び、第17号議案「臨時代理による処理の承認を求めることについて（府中市立学校教職員の人事異動について）」、この2点について決定することにご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（久芳美恵子君） 全員異議なしでございます。原案どおり決定いたします。

本日は、議案はこの2件のみでございます。



◎平成24年度府中市給付及び貸付奨学金認定状況について

○委員長（久芳美恵子君） 報告・連絡に移らせていただきます。

報告・連絡（1）につきまして、総務課、お願いいたします。

○総務課長補佐兼学校耐震化等推進担当副主幹（月岡敏浩君） それでは、ただいま議題となりました平成24年度府中市給付及び貸付奨学金の認定状況につきまして、資料1に基づいてご説明いたします。

府中市奨学資金給付制度及び奨学資金貸付制度につきましては、教育の機会均等を図るため、経済的理由等で就学が困難な方に、就学上必要な資金を給付する、あるいは貸し付けをするものでございます。

今回、平成24年度の給付及び貸付奨学金に係る状況を報告させていただきます。

1の審査経過でございますが、給付及び貸付奨学生につきましては、平成24年3月29日に、市立中学校長から構成されました選考審査委員会を経て、本人の健康状態や学力及び人物が良好であること、また保護者の所得が制限額以下の方を基準とし、予算の範囲内で検討し、決定させていただきました。

2の応募状況でございますが、給付奨学生の新規申込者は155名で、選考審査委員会での審査の結果、88名の採用を決定いたしました。次に貸付奨学生の新規申し込み者は83名で、審査の結果、51名を採用いたしました。

3の認定状況でございますが、（1）は給付奨学生、（2）は貸付奨学生の状況となっております。（1）の給付奨学生の表では、新規者は今回の募集で新たに選考決定された方で、予算額と決定人数、学校種別の内訳はそれぞれ記載のとおりでございます。

次の行の「内新1年生」は、上段の「新規者」のうち新1年生で、この方々は入学準備金の対象となりますので、その給付状況を記載してございます。

3行目の「継続者」は、前年度から継続して利用している方の状況でございます。

4行目は合計で、人数は283名となっております。

次に(2)の貸付奨学生の状況でございますが、表の1行目の「新規者」は、今回の募集で新たに選考決定した方で、予算、人数、学校種別につきましては記載のとおりでございます。

2行目の「継続者」は、前年度からの継続利用者で、3行目はそれらの合計となっております。なお、この奨学資金の財源でございますが、給付奨学金は基金からの繰り入れと一般財源、貸付奨学金は償還金と一般財源で運営しております。なお、奨学基金の総額につきましては、平成23年度末で、8億5,100万円となっております。

以上でございます。よろしくご審議のほど、お願い申し上げます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。平成24年度の府中市の給付及び貸付奨学金の認定状況についてご説明いただきました。いかがでございましょうか。何かご質問、ご意見ございましたらどうぞ。

私からよろしいでしょうか。2件ございます。1点は、このような社会状況ですので、奨学生として応募の人数が増加しているのではないかと思うわけですが、その辺がここ2~3年と比べてどうであるかということと、もう一つは、貸付奨学生というのは償還されたお金と一般財源ということなので、償還ですね。返していただいた額というの、どういう推移になっておりますでしょうか。

○総務課長補佐兼学校耐震化等推進担当副主幹(月岡敏浩君) 最近の申し込み状況でございますが、昨年度が奨学資金の給付のほうは116名で、奨学資金の貸し付けのほうは70名となっております。一昨年が、給付が152名、貸し付けが83名でございますので、24年度につきましては、昨年よりかなり増加で、おととしと同程度となっております。

償還金の未納者でございますけれども、今年度は貸付奨学金の未納者が、未納金のほうが197万円ほどございまして、昨年度が213万円ほどでございましたので、少し減少しているという状況となっております。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。そうですね。そうすると昨年の平成23年度は少し状況がよくなったのかなという感じの人数ですが、また今年の、平成24年度に関しては、22年度と同じようにちょっと人数が増加しているということですね。

はい。償還金のほうもわかりました。

ほかにいかがでございましょうか。何かご質問やご意見、ご感想とか。よろしゅうございませうか。

それでは、報告・連絡(1)平成24年度府中市給付及び貸付奨学金認定状況について、了承いたします。ありがとうございます。



◎平成24年度児童・生徒数について

○委員長(久芳美恵子君) 次に報告・連絡の(2)でございます。学務保健課、お願いいたします。

ここ5年間で、保育所の入所が約800名と増えているという関係もあるのかなと感じております。ですから、両親共働きの家庭が増えておりまして、保育所関係のほうに大分流れているのかなという感じがあるのではないかなと思っております。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) 保育所のほうに5年間で800名というのはかなりの数でございますよね。やはり府中市の場合は、待機児をなくすということで、今年の4月に何園かできたということもございますので、幼稚園が、経済状態がこんな状態だとずっと下がり続けるということになりますので、その辺の対応ですね。ただ、園児を増やせばいいかということではないと思いますので、その辺はもう教育委員会だけでなく、府中市全体で考えていかなければならないことだろうと思います。

大変わかりやすい数値を示していただいて、ありがとうございます。

○委員(崎山 弘君) 中学校の1年生の数が1,929名ということになっておりますが、これは府中市の中学校1年生相当の人数の何パーセントぐらいに相当するのでしょうか。つまり、私立にどれぐらい流れていったかということは把握されているのでしょうか。

○学務保健課長補佐(市川直次君) 24年度でございますが、学齢簿の登載人数が、これ新1年生でございますが、2,300名ほどいます。24年度につきましては、大体325名ほど、率にして14.4%ぐらいが私立のほうに流れていっているという状況でございます。

以上でございます。

○委員(崎山 弘君) では、その14.4%という数字は年々増えているのでしょうか。それともほとんど変わらないのでしょうか。お願いします。

○学務保健課長補佐(市川直次君) 大体14.4%でございますが、平均しますと13%~15%の間を行き来しているという状態でございます。

以上でございます。

○委員(崎山 弘君) 以前、品川の小中一貫、視察に行ったときに感じたことですが、そこではやはり中学校を選ばせるという基準の中に、中学校が私立にどんどん逃げていってしまうというところがあって、やはり魅力ある学校づくりとして中高一貫というのを考えていらっしゃることを伺ってまいりました。やはり府中市としても魅力ある中学校をつくっていけば、14%がある程度一定の値であるならば、いいことなのではないかと思えます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。ほかにいかかでございますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、報告・連絡(2)平成24年度児童・生徒数報告集計表に基づきました提案につきまして、了承いたします。ありがとうございます。



◎平成24年度幼・小・中教育課程届の受理状況について

○委員長(久芳美恵子君) それでは、報告・連絡の(3)にまいります。指導室、お願いいたします。

○指導主事(山本勝敏君) 私からは、平成24年度教育課程届の受理状況につきまして、お手元の別紙資料3と各学校からの教育課程の届け出に基づきまして、ご説明申し上げます。

平成24年度は、小学校においては新学習指導要領全面実施の2年目、また中学校において

は、全面実施1年目となります。各校、園におきましては、学習指導要領及び幼稚園要領に示された内容を確実に実施するとともに、生きる力をより一層はぐくみ、学校教育プラン21の基本理念である、「誇りをもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する府中っ子を育てる」ことが重要となります。

それでは、各校、園の教育課程届の全体的な傾向につきまして、ご説明いたします。資料3をごらんください。本資料は、各校、園の教育課程届から、平成24年度の教育目標と、本校及び園の教育の特色についてお示ししたものです。委員の皆様には各校及び園からの教育課程届の冊子と合わせてご参照ください。

個々の園、学校の特色を見ますと、幼稚園では幼児一人ひとりの発達の特性に応じた教育の充実。小学校では基礎的、基本的な知識、技能の習得、また思考力、判断力、表現力の育成。中学校では確かな学力の定着、また規範意識や他を思いやる心の育成。特別支援学級では、個別指導計画に基づいた個に応じた指導、また交流及び共同学習の充実などが重点化、焦点化の内容となっております。

中でも小・中学校につきましては、教育課程編成の重点として各校に示した各教科のねらいをとらえた言語活動の充実について、言語能力を育むための読書活動も含め、19校が本校の教育の特色に位置づけております。この状況からも学力の三要素の一つである思考力・判断力・表現力の育成に向けた言語活動の充実を、多くの学校が教育の重点課題としてとらえていることが伺えます。また、体力向上につきましては、8校が本校の教育の特色に位置づけております。言語活動の充実に比べ、特色と位置づける学校数は下回りますが、一方でこの状況からは、体力向上に向けた「一校一取組」、「一学級一実践」といった、全校体制による取り組みと、学年、学級の特徴をとらえた取り組みが定着しつつあることが伺えます。

さらに、規範意識や他を思いやる心の育成を重点とした健全育成を、本校の教育の特色と位置づけている学校は、33校全校になります。健全育成に向けた道徳授業の推進、異学年との交流活動、またセカンドスクールや職場体験等による体験活動等の取り組みの充実も特色の一つと言えます。

このほかにも新しい時代に対応した教育の充実として、防災教育の推進がございます。防災教育につきましては、各校において、児童生徒が災害時に適切な行動がとれることを目標とし、教科等との関連を図り、指導を充実していただいているところです。また、資料7ページの四谷小学校、10ページの府中第八中学校につきましては、防災教育を特色のある教育と位置づけるとともに、9年間の学びと育ちを踏まえた第八中学校区における、まず自分の身を守り、次に身近な人を助け、さらに地域に貢献できる人材育成の取り組みも特色と言えます。

以上で、平成24年度教育課程の受理状況についての説明を終わります。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。重点的なところを要約してご説明いただき、ありがとうございます。それでは、いかがでございましょうか。なかなか量的に多いものですから、細かくはお聞きできないと思いますが、いかがでしょう。

○委員（北島章雄君） 四谷小とそれから八中は防災を通した連携、とてもよいことだと思います。その中で、校区が変わって、小学校から中学校へ全学年が行く学区も増えております。その中で、小中一貫的な教育がこう、今回のこの計画、お示しの中にあらわれている学校はあ

るのでしょうか。

○指導主事（山本勝敏君） 小中一貫教育を教育課程に位置づけた学校といたしましては、お手元の資料3ページになります。府中第七小学校。それからお手元の資料4ページの武蔵台小学校、この2校につきましては、近隣の府中第七中学校と英語教育を通じた小中一貫の取り組みを行っております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） よろしいですか。

○教育部副参事兼指導室長（小椋 孝君） ここにはなかなか限られたところで特色として項目で出ておりませんが、二中校区におきましては、生活指導の連携ということで、生活指導の指導員と連携した取り組みをしております。また、例えば南町小と三中、三小も含めてですけれども、体育の教員が小学校に行き指導するとか、そのような教科の連携、それから学校のきまり、それも小学校と中学校で同じような形で発展性を持たせて、急に中学校に行ったらきまりが変わっているとか、そんなことがないよう、ギャップの問題をちょっと円滑化しようとか、そういうような各校の取り組みが今、始まっているところでございます。

○委員（北島章雄君） ありがとうございます。そのような連携をされているという情報を地域の方々に公開していただいて、こういう仕組みがあるのだということをお知らせすることによって、地域の方々もやっているなという気づきができると思いますので、そちらのほうもよろしく願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。本当に学校間の連携だけでなく、地域ぐるみでやっていくということが大事なことかなと。昨年、京都に視察に行かせていただいたときに、本当に痛感いたしました。また、よろしく願いいたします。

ほかにかかでございますでしょうか。

○委員（齋藤裕吉君） 今の説明の中で、防災教育の見直しというお話があって、私もそういう話を聞いて、ああ、よかったなと思ったのですけれども、この間の大変な震災の記憶が薄れないうちというか、とにかくそういう見直しをしっかりとやって、学校のほうで防災の意識と行動力をちゃんと高めていくという指導は、ぜひとも力を入れてやってほしいなということを思っていたところでしたので、そういうことが、各学校できちんと載せられているということで、よかったなと思います。ただ、防災教育と合わせて、現実的には学校の中だけでは決して完結しない防災対策というのでしょうか、災害対策というのでしょうか。こういった課題がこれから現実的に発生する可能性が非常にあるわけですので、そういう教育と合わせて実際に対応できるような、これはカリキュラムですから教育の計画ですけれども。そういう体制のこともあわせて考えていく必要があるかなと思います。

一つ質問ということなのですが、コミュニティ・スクールの取り組みということで、今、進めていただいていると思うのですけれども、そういう取り組みを進めている学校さんのカリキュラム、教育課程の特徴を概要からだけではちょっと読み取りにくいのですけれども、ちょっと説明の追加をしていただければ、お願いしたいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○指導主事（山本勝敏君） コミュニティ・スクールにつきましては、取り組みを行っている学校といたしましては、お手元の資料9ページにございます府中第五中学校になります。府中第五中学校につきましては、地域と連携して推進する学校運営の充実ということで、昨年度設置

されましたスクール・コミュニティ協議会、この取り組みの一層の充実を図っております。また、地域と学校が相互に支援し合う体制を築きながら、新たな学校運営のあり方、こちらを確立していくと。その取り組みを今、しているところでございます。

以上でございます。

○委員（齋藤裕吉君） 小学校のほうではいかがでしょうか。

○教育部副参事兼指導室長（小椋 孝君） つけ加えまして、戻りまして今の五中でございますが、地域に活用できる、地域を育てる子どもたちを育てようということで、この地域は自治会が90を超える数がございます。それをまとめる一つの方策としまして、地域の防災訓練を、学校を核として、自治会をまとめてやろうということをご検討しております。5月の第2土曜日だったかと思っておりますけれども、そのオープニングミーティングのような形で地域の方を集めて、その趣旨を説明して、なおかつプラスバンド部が演奏して、そういうことをやろうということをご企画しております。小学校につきましては、日新小学校がモデル地域をやっておりますが、この7ページの日新の特色のところを見ていただくとわかるのですが、非常に多くの地域の方にご協力いただいている行事をやっております。また、地域の見守り体制等も日新小はやっておりますので、今でも地域の方に協力していただいている取り組みや行事をもう一回見直しまして、四つの部会を今、設立しております。その部会で、またやっていることを見直して、系統性とか継続性を見直すことによって、より地域の方に多くそのことを参加していただくような取り組みを今、やっております。今日は持ってこなくて大変申しわけございませんでしたが、両校につきましては、地域に発信するチラシを今、準備してつくっているところでございますので、またできましたら、教育委員の皆様にもそれをお届けしたいと思います。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。よろしゅうございますか。どうぞ。

○委員（齋藤裕吉君） ありがとうございます。ぜひ仕上りの年度ですので、どんどん発信していければと思います。

概要の中で、各学校の説明の頭の部分、大概人権尊重というのと、人間尊重の精神というのと交互というか、入り混じって出てくるのですけれども、ちょっと概念的な質問で恐縮ですけれども、人間尊重の精神というのと、人権尊重の精神というのは、各学校違いを意識して使っているのかなど。これ一覧して見てしまうと思ってしまうのですけれども、その辺いかがでしょうか。どの学校でもどっちかが出てくるのです、大概。その違いがわかって使っているのかどうか。あるいはそういう指導をなさってきているのかどうか。ちょっと教えていただければと思います。

○教育部副参事兼指導室長（小椋 孝君） 大変推測で申しわけございませんが、これはかなり学校として教育目標がございますので、引き続き、最初につくったものを脈々と続いてやっていると多いかと思っております。その際に、参考にしたところが都の教育目標とか、市の教育目標とか、教育基本法だとか、ひもといたところのものがこの人権尊重と人間尊重のところで少し変わってきているのかなど私は分析しているところでございます。

ざっくばらんでお話ししますと、あまり他意はないのかなど。逆に言うと、思っている精神は同じですけれども、考えていることはですね。そのひもといたもとにしたものがそこで変わりが出ているのかなどと思っております。

ただ、今、いい気づきの視点をいただきましたので、来年度は学校のほうにもその振り返りをしながら指導していきたいと考えます。

以上でございます。

○委員（齋藤裕吉君） よろしくお願ひします。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。言葉というものは難しく、他意はない感じで使っていても、それが違った形で伝わってってしまうということがありますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

ほかはいかがでしょうか。

○委員（崎山 弘君） それぞれ本校の教育の特色を述べておられるわけですが、当然のことながら、国あるいは都、あるいは市の方針がもとにあつて、それぞれ学校でそのように地域の特性、あるいは学校の規模、生徒・児童の様子、あるいは一般の教諭、先生方の力量などを考えて、それぞれ特徴のある学校づくりをされている、校長先生が頑張つていらっしゃるのですが、実際これがつくられたのは3月の段階で、その後異動されているところもかなりあるわけです。この場合、この引き継ぎというのは、やはりこの書いた人がその学校に行つたりしているわけなので、その学校をよくご存じの校長先生がつくられた方針をやつぱり引き継がなければいけないと思うのですが、こういうことに、異動に関しての引き継ぎみたいなことはどのような形でなされているのか、ちょっと参考までにお伺ひしたいと思いますので、お願ひします。

○教育部副参事兼指導室長（小椋 孝君） 異動の引き継ぎにつきましては、各校で直接的に本当にお会いしてやるのはなかなか時間もとれませんので、正直なところ1回か2回。ただ、学校によりましては、校長先生が配慮しまして、新旧の副校長を会わせて地域まわりを、新しい副校長先生の引き継ぎに来るときに合わせて地域まわりをお互いしていこうと。「お世話になりました。これからよろしく。」とやっているところもございますので、いろいろ工夫をしているところでございますが、教育目標、学校の特色につきましては、学校として来年度こうするという届け出をしていただいでやっているものでございますので、校長がかわつても引き継ぎやってもらふものにとらえています。ただし、これをもとにして、学校の経営計画というものを校長が立てますので、また分厚いので、先日お配りしたような形。それに対してはこれをもとにしながら、新しい校長先生が自分のカラーも含めながら立てていくものでございますので、そういうところで反映をさせていただきながらということで、今、ご質問のところの引き継ぎ、プラス自分のカラーもそういうところを出していつているのかなとらえております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） よろしいですか。ありがとうございました。ほかはいかがでございますでしょうか。

それでは報告・連絡の（3）平成24年度幼稚園・小学校・中学校・特別支援学級教育課程届け出の概要につきまして了承いたします。これからが大変でございますが、どうぞよろしくご指導ください。ありがとうございました。



◎国司館と家康御殿整備活用検討懇談会からの提言について

○委員長（久芳美恵子君） それでは、報告・連絡の（4）につきまして、ふるさと文化財課、

お願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐（谷本耕一君） それでは、ふるさと文化財課から（４）国司館と家康御殿整備活用検討懇談会からの提言につきまして、お手元の資料４に基づきご報告いたします。

武蔵国府跡御殿地地区保存整備基本計画を作成するに当たり、市民の意見を反映させるため、平成２３年１２月１日に、国司館と家康御殿整備活用検討懇談会を設置し、国史跡武蔵国府跡御殿地地区の保存、整備及び活用についての検討協議が行われ、このたび提言書が提出されましたので、報告するものです。提言内容は目次にございますように、１、提言の趣旨、２、整備活用への基本方針、３、具体的な提言、４、結びとなっております、特に地元府中のみならず日本の宝として貴重な史跡の保存と、ＪＲ府中本町駅前のにぎわいと魅力ある空間が両立できるよう、整備活用への基本方針や具体的な提言により、本市が市民との協働により御殿地地区の保存、整備及び活用を図っていくものとなっております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） いかがでございましょうか。提言という形でお出しいただきました。これは教育委員会が検討懇談会に対して依頼したことにつきまして、検討していただいて、この提言につながっているということでございますね。

○委員（齋藤裕吉君） 私は事前に見せていただいたのですが、共感しましたのは、１ページ目の下のほうに、４行目のところ、「ぜひとも、史跡の保存とにぎわいと魅力ある空間が両立できるように」という、こういった部分に私は共感しました。歴史的な史跡としての保存ということの意味ということで、しかしながら、地元のにぎわいというものは両立するというこのところの考え方は、ぜひ実現していっていければすばらしいのではないかなということをおもいました。感想でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。ほかはいかがでございましょうか。北島委員、いかがでございますか。

○委員（北島章雄君） 私も齋藤委員がおっしゃったとおり、本当に保存とにぎわいのある魅力ある空間ができればなと思っております。それと府中市にやっぱり史跡がありますので、そのコラボレーションをとりまして、ここの場所だけではなくて、府中市の史跡を、全体を見た中でにぎわいができればいいかなと思っております。それは動であり静であり、いろいろあると思いますが、それを一つにし、そして府中市がにぎわいのあるまち、そして発信できるまちにしていいただければと思います。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。

○委員（崎山 弘君） 私も今、これを拝見して、一つおもしろい視点だなと思ったのは、５ページに「国分寺との連携を強化し、国府・国分寺歴史めぐりなどのツアーを」と書いてありますけれども、確かにこういう発想は私、今まで感じたことはなかったのですが、ただ「京都・奈良」という言い方をしますよね。そういう形と同じように、国府と国分寺があるというのが一つのペアになるというのはおもしろい発想だなと。そういってお互いの市が共同して何か事業ができるとインパクトも大きくなるのではないかなと思いました。そういう視点をここに書かれたのは、私は非常におもしろいことだなと感じました。

以上です。

○委員長（久芳美恵子君） 本当にそうですね。今、おっしゃっていただいたのはそうだと思います。あと、中には大國魂神社、都の連携、お祭りも含めてですけれども、いろいろ考えると、連携できるものは府中市には随分あるなと思いました。ぜひ、3ページにあるインパクトのあるネーミングですね。結構府中市では「くるる」であるとか、そういう一体何だろうとちょっと首をかしげてよく調べると、ああ、そうだったのかと思うようなネーミングがございませう。その才のある方がいらっしゃるようございませうので、名前を聞いたらぜひ行きたいと思うようなネーミングをお願いいたします。

ほかにはいかがございませうか。よろしゅうございませうか。

それでは、報告・連絡の（4）国司館と家康御殿整備活用検討懇談会からの提言について、了承いたします。よろしくお願ひいたします。



◎平成24年度府中市立ふるさと府中歴史館の臨時開館日について

◎くらやみ祭展の開催について

○委員長（久芳美恵子君） 次に、報告・連絡の（5）、（6）でございませう。ふるさと文化財課、お願ひいたします。

○ふるさと文化財課長補佐（谷本耕一君） 続きまして、初めに（5）平成24年度府中市立ふるさと府中歴史館の臨時開館日につきまして、お手元の資料5に基づきご報告いたします。

まず、1の趣旨でございませうが、平成24年度ふるさと府中歴史館におきまして、特別展示の開催に伴い、臨時開館日を設けるものでございませう。2の臨時開館日でございませうが、5月3日（木）から5日（土）まで、くらやみ祭展の開催に伴い、展示会場の3階会議室と1階の国府資料展示室を臨時開設いたします。

続きまして（6）くらやみ祭展の開催につきまして、お手元の資料6のチラシによりご報告いたします。ふるさと府中歴史館では、大國魂神社例大祭の時期に合わせ、本年もくらやみ祭展を開催いたします。この時期は市内ばかりでなく、市外からも多くの観光客が府中を訪れるため、多くの方々に府中市の歴史や文化に親しんでいただくため、くらやみ祭に関する資料を展示するものでございませう。

展示内容は、長年くらやみ祭を描き続けている画家、綾部好男氏の墨彩画、くらやみ祭画景30点を中心としたものです。この作品は4月30日の品川海上禊祓式から5月6日の鎮座祭に至るまでのくらやみ祭の全貌を余すところなく描いた作品であり、現在のくらやみ祭を記録した歴史資料としても大変貴重な作品です。このたび全点が市に寄贈されたことを記念し、展示会を開催いたします。期間は平成24年4月25日（水）から5月6日（日）まで。会場はふるさと府中歴史館、3階会議室でございませう。また、展示期間中の5月3日（木）には、展示会場にて作者の綾部好男氏ほかによるギャラリートークを午後2時から1時間程度開催する予定となっております。

以上でございませう。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。臨時開館とそれに伴うというか、それと同時にくらやみ祭の絵の展覧会が開催されるということでございませうが、すべてが市に寄贈されたということで、すばらしいことですね。

いかがでございませうか。この（6）につきましてのご質問は。

1点だけですが、(5)のところですが、くらやみ祭の展示会等々の関係で、ふるさと府中歴史館が開館いたしますが、係員の方の配置などはどうなっておりますでしょうか。

○ふるさと文化課長(江口 桂君) 当日、この臨時開館する際には、職員が通常より多く出勤いたします、当番で交代制で詰めます。また3階のくらやみ祭展の会場にも常時職員が詰めまして、市民への対応に務めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。特別の出勤だと思しますので、その代替のほうは遺漏なきように、どうぞよろしく願いいたします。

この(5)、(6)に関しましていかがでしょうか。ご意見ございますでしょうか。よろしゅうございませうか。

それでは、報告・連絡(5)平成24年度府中市立ふるさと府中歴史館の臨時開館日について、及び報告・連絡(6)くらやみ祭展の開催について了承いたします。どうぞよろしく願いいたします。



◎郷土の森博物館企画展「武蔵府中の板碑—医師に刻まれた中世」について

◎郷土の森博物館開館25周年記念企画展

「府中メモリアル～記念品から見た地域の歴史～」について

◎「宇宙の日」記念全国小★中学生作文絵画コンテスト作品大募集について

○委員長(久芳美恵子君) 次に報告・連絡の(7)、(8)、(9)につきまして、ふるさと文化財課、続けてお願いいたします。

○ふるさと文化財課長補佐(谷本耕一君) 引き続きふるさと文化財課からまとめて3件、ご報告いたします。初めに(7)郷土の森博物館企画展「武蔵府中の板碑—石に刻まれた中世」につきまして、お手元の資料7のチラシによりご報告いたします。

板碑とは、中世、鎌倉から戦国時代の人々が建てた供養塔のことです。そこで、「板碑ってなに」、「武蔵府中の板碑」、「板碑から探る中世」の展示構成として、板碑を通して中世人の祈りの世界を伺うとともに、彼らの営みの一端も探る目的で開催するものでございます。会期は7月1日(日)まで。会場は郷土の森博物館本館2階企画展示室でございます。

続きまして(8)郷土の森博物館開館25周年記念企画展「府中メモリアル～記念品から見た地域の歴史～」について、お手元の資料8のチラシによりご報告いたします。

まず開催の趣旨でございますが、「記念」をキーワードに市内でつくられたさまざまなバッジ、メダル、切符など、バラエティ豊かな記念品を取り上げ、それらを通して府中の歩みを探る目的で開催するものでございます。会期は4月28日(土)から6月24日(日)まで。会場は郷土の森博物館本館1階特別展示室です。期間中、6月3日、10日、17日の3回、連続講演会「私たちと記念品」も開催されます。私たち日本人は何を記念し、何を残そうとしたのか。モノを通じた記憶の記録化の足跡を追った展示会でございます。ぜひ二つの企画展にご来場くださいますようお願いいたします。

最後に報告(9)「宇宙の日」記念全国小★中学生作文絵画コンテスト作品大募集につきまして、お手元の資料9に基づきご説明いたします。

郷土の森博物館では、昨年に引き続き「宇宙の日」記念全国小★中学生作文絵画コンテスト

の作品を募集いたします。このコンテストは宇宙や地球環境について考えることを目的として、文部科学省、自然科学研究機構国立天文台、宇宙航空研究開発機構などが主催し、全国の科学館等が募集窓口となって行われます。府中市では郷土の森博物館が窓口となります。昨年は郷土の森博物館で優秀賞を授与した作品のうち、小学校絵画の部では市立四谷小学校の児童が文部科学大臣賞を受賞されました。既に各学校あてにもポスター、チラシを配付させていただき、周知をお願いしております。

以上で報告を終わらせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。3点についてご報告をいただきました。いかがでございましょうか。武蔵府中の板碑、記念品から見た地域の歴史、そして宇宙の日記念の小・中学生の作文絵画コンテストでございます。

○委員（齋藤裕吉君） いずれもおもしろそうな企画で、とても興味を持ちました。板碑のことで、例えばこのパンフレットの文字、これ梵字ですよ。こういったものを解読できる学芸員さん等がいらっしゃるのかなど。つまり、何書いてあるのだろうかという興味を持つのですが、わからないですよ。それで、これはこういうことだというヒントとか、解読とか、そういった簡単に言うと、わかりやすく説明してくれるようなディスプレイというか、何かそういう配慮があるのかなとちょっとお聞きしたいのですが。

○ふるさと文化財課長（江口 桂君） こちらは既に開催しておりますが、展示室を入りましてすぐの正面に、板碑はどういうものかというわかりやすい展示パネルを掲示してございまして、この梵字、キリクの意味、その他もそちらで解説をしております。また、こちらの板碑展の担当学芸員は、現在この板碑研究ではおそらく全国でもかなりの研究をしているレベルの学芸員でございますので、まさにこの板碑研究のプロである学芸員がそちらの展示会を担当しておりますので、ぜひともその際に足をお運びいただいた際には、深澤学芸員でございますが、解説のほうをみずからやるような形で準備しておりますので、また問い合わせ等ございましたら、学芸員のほうで対応するようにしております。

以上でございます。

○委員（齋藤裕吉君） ありがとうございます。私もわかるようにしてほしいという気持ち、恥ずかしいのですが。と、同時に、小学生とか中学生がわかるような形になっているといいなという思いもあったものですから、質問いたしました。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。府中にはいろいろな才のある方が多いですね。

ほかにいかがでございましょうか。

では、私から。これは感想です。いつもいろいろな視点から特別展等々開いていただいておりますが、この記念品から見た地域の歴史というのは、全く私の想像外の、大変興味深い視点だなと思って、ぜひ出かきたいと思っております。

ちょっと本当に小さいなことで、これは個人的な興味からだけなのですが、作文絵画コンテストの賞品がございましてね。その中で、主催者賞の文部科学大臣賞「プラネタリウム」というのは何ですか。プラネタリウムってすごく大きなものですよ。

○委員（崎山 弘君） 小さいもの。家庭用があります。

○委員長（久芳美恵子君） 家の中で使えるのが。そうですか。それはまたもらった人はうれ

しいですね。失礼いたしました。ありがとうございます。

ほかにごございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡の(7)郷土の森博物館企画展「武蔵府中の板碑一石に刻まれた中世」について、(8)郷土の森博物館開館25周年記念企画展「府中メモリアル～記念品から見た地域の歴史～」について及び(9)「宇宙の日」記念全国小★中学生作文絵画コンテスト作品大募集について了承いたします。どうぞよろしく願いいたします。



◎府中市生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定会議委員の変更について

○委員長(久芳美恵子君) それでは、報告・連絡の(10)につきまして、生涯学習スポーツ課、お願いいたします。

○生涯学習推進担当副主幹(茂木孝之君) それでは生涯学習スポーツ課より、府中市生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定会議委員の変更につきまして、資料10に基づきご説明いたします。

本件につきましては、府中市生涯学習センターにおきまして、指定管理者制度を導入することに伴い、候補者の選定に当たりまして、既に選定会議の委員を決定し、ご報告を済ませているところでございますが、市職員の定年退職に伴う人事異動におきまして、変更がございましたので、ごらんいただいている資料のとおり、ご報告するものでございます。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。生涯学習センターにおける指定管理者の候補者を選定する会議の委員のメンバーの変更ということで、これは今、ご説明ありましたように、市職の委員の定年退職に伴う人事異動ということでございます。

それでは、(10)生涯学習センターにおける指定管理者候補者選定会議委員の変更について了承いたします。よろしく願いいたします。



◎平成24年度憲法講演会について

○委員長(久芳美恵子君) 次に報告・連絡(11)でございます。生涯学習スポーツ課、お願いいたします。

○生涯学習推進担当副主幹(茂木孝之君) 続きまして生涯学習スポーツ課より、平成24年度憲法講演会の開催につきまして、資料11に基づきご報告いたします。

生涯学習センターでは、5月3日の憲法記念日を含む5月1日から7日の憲法週間に合わせまして、多くの市民の方が憲法について理解を深めることができるよう、市民にとって身近でわかりやすい内容を取り上げた憲法講演会を毎年開催しております。今年度は明治大学法学部専任教授の浦田一郎氏をお招きしまして、憲法についてわかりやすく解説していただきます。開催日時は平成24年5月1日(火)の午前10時から正午までとなっております、会場は生涯学習センター研修室を予定しております。なお、2枚目のチラシを市内の施設に設置するなど周知を図ってまいります。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。府中市憲法講演会のお知らせでございますが、いかがでございましょうか。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

このような講演会で、聴きに行くと、とても素人にとって目からうろこという話が伺えるのですが、残念ながらお聴きいただく方が例年少ないのですよね。この辺のところをどうしたらいいのかなと思いますが、どの辺のところまでお知らせしていただいているのでしょうか。

○生涯推進担当副主幹（茂木孝之君） 市内の各施設ということで文化センターを初め、女性センター、市政情報センターとか、そういったところや、あとはPTA等にもご連絡を差し上げているところです。また、ちゅうバスの広告として、広告媒体としてポスターも掲出する予定です。また、今回初めての試みで、府中市で今年度から携帯電話のメール情報配信サービスというのが始まりましたので、そちらの登録者にメールマガジンとして、今回のこの憲法講演会の情報提供をしたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。さっきふと思ったのは、町内会がありますよね、10数から20ぐらいの家が固まって。町内会長さんというのがいらっしゃいますけれども、そういう方々にアプローチというのはできないのでしょうか。こういうことがあります。結構お年を召した方が多いとは思いますが、やはりそういう町内をまとめていらっしゃる方々に聴いていただくと、本当に大きい憲法の問題から、自分の住んでいる地域でその法律のことなども知っていらっしゃるとよいと思います。法律についての興味を抱いていただくとか。できれば多くの方々に、ただ周知するというだけではない部分のつながりを通した感じで、もしかしたら教育委員会の範疇を超えてしまうかもしれないのですが、そういうことができる、人数もそうですし、興味関心のある方は来てくださるかなと。これは希望的観測なのですが、ちょっと検討していただければありがたいかなと思います。

ほかにかがででしょうか。

○委員（崎山 弘君） これも火曜日の午前中なので、私は多分行けないのだろうなと思っではいるのですが、私も思いつきのレベルで恐縮ではあるのですが、例えば国会などでも今、インターネットで中継とかしています。こういうのも著作権とかいろいろあるので、なかなかだれでも見られるという形にするのは難しいかもしれませんが、そういうのを考えてこれからネットで中継できるとか、府中が文化を発信しているのだということを伝えるためにもいいのかなと思うので、今後、そういう方法も何か検討していただけると、自宅から出られない人も、自宅だったら見られるという人もいるかもしれません。むしろ、高齢の方で足が不自由で、そこまでは行けないなという方も見られるかもしれません。そういう方も考えてもいいのかなと今、思いました。

○委員長（久芳美恵子君） よろしくご検討いただければと思います。ほかにかがででしょうか。よろしゅうございましょうか。

それでは、報告・連絡（11）平成24年度憲法講演会について了承いたします。よろしくお願いたします。

◇

◎平成24年度府中市立小中学校美術鑑賞教室の実施について

○委員長（久芳美恵子君） 次に報告・連絡の（12）でございます。平成24年度府中市立小中学校美術鑑賞教室の実施につきまして、美術館、お願いたします。

○美術館副館長（山村仁志君） それでは美術館から報告（12）平成24年度府中市立小中

学校美術鑑賞教室の実施につきまして、お手元の資料をもとに説明させていただきます。なお、本日の資料として、本文のほか、平成24年度美術館年間スケジュールと昨年度の美術鑑賞の手引き小学校版を参考に配付させていただいております。内容は変わっておりませんが、今年度の鑑賞の手引きは現在印刷している最中でありまして、今後、業者から各学校に配付されます。

本文に戻りまして、まず初めに1の本事業の目的でございますが、府中市美術館での展示作品の鑑賞を通して、美術に対する関心を高め、豊かな情操を養うとともに、みずからが主体的に意欲や興味を持って鑑賞する態度を育てることとしております。

2の主催は、府中市教育委員会をはじめ記載のとおりでございます。

以下、内容につきましては、担当教諭の方々の前年度の実施報告内容等を参考に検討し、従来と同様の内容で計画しております。

3の対象は、(1)小学校は各学校が決定する第4、5、6学年のいずれかの学年の全児童、(2)中学校は第1学年の全生徒でございます。

4の日程でございますが、(1)の小学校は、各学校の教育課程を調整いたしました結果、裏面の実施予定のとおり予定しております。(2)の中学校につきましては、5月1日から翌年2月末日までの間で各学校が設定する期間中の1回となっております。

5の会場は、府中市美術館でございます。

6の鑑賞方法でございますが、(1)の小学校は、当該学年の学級担任の教諭、図画工作専科教諭等が引率し、近隣校は徒歩で、他校はバスの交通手段で美術館を訪れていただくものです。鑑賞時間は学芸員による説明を含めて2単位時間。図画工作の授業時数として扱うことができます。(2)の中学校は原則として、各中学校が設定した期間内に授業時間外を利用して、生徒が直接美術館を訪れ、自主的に鑑賞するものです。ただし、教育課程に位置づけクラス単位で鑑賞することも可能ですので、相談に応じております。

7の事前説明会ですが、小学校は美術館で各学校当該学年の学級担任の教諭及び図画工作専科教諭を対象としまして、事前に連絡をいたしまして、必要な説明と相談を個別に行って内容を考えております。中学校につきましても、希望に応じて対応しております。

次に、次ページの平成23年度美術鑑賞教室実施結果につきましては、記載のとおりでございますのでご参照ください。なお、中学校の実施結果につきましては、ご利用いただいた鑑賞の手引きの裏面に、鑑賞券をつくっておりますので、それを受付ていただいておりますので、それを集計した数値でございます。市内の小・中学校には、別に「学びのパスポート」による鑑賞施策もございまして、この利用数値はここには含まれておりません。

以上でございます。

○委員長(久芳美恵子君) ありがとうございます。美術鑑賞教室でございます。いかがでございますでしょうか。府中のような立派な美術館があって、内容のある展示があって初めて開催されるものだと思いますが、いかがでしょうか。

○委員(崎山 弘君) いただいた資料の24年度小学校の美術鑑賞教室予定のところですけれども、四小と五小は今年多分間違って記載されている形ですか。石子順造展が。

○美術館副館長(山村仁志君) すみません。失礼いたしました。こちらのほうの間違いであります。2月8日、2月20日になっていきますので、来年の2月という形で「虹の彼方に」展

となります。

○委員長（久芳美恵子君） 何かございましょうか。

それでは、平成24年度府中市立小中学校美術鑑賞教室の実施について了承いたします。どうぞよろしく願いいたします。



◎子ども読書の日について

○委員長（久芳美恵子君） 次に報告・連絡の（13）でございます。図書館、お願いいたします。

○図書館長補佐（坪井茂美君） 子ども読書の日について、図書館からご報告いたします。資料はございません。

4月23日は子どもの読書活動の推進に関する法律に定められた子ども読書の日です。その日に合わせて図書館ではさまざまな事業を行っております。4月11日号の『広報ふちゅう』でお知らせしておりますが、4月13日から始まっております「絵本だいすきおはなしキャラバン」や、4月21日開催のおはなしボランティアと図書館職員による「おはなしいっぱいのかい」、また、5月13日まで、図書館全館で「読書キャンペーン『たびたびよんで本のたび～みんなともだち』」を実施しております。

「おはなしキャラバン」は図書館以外の6会場にご協力いただき、1～2歳児と保護者の方を対象に、おはなしボランティアの方が絵本の読み聞かせや手遊びを行っております。今年度既に開催済みの生涯学習センターでは22人、女性センターでも22人、本日開催いたしました美術館では35人の親子の方が参加されて、楽しい時間を過ごされておりました。また、「たびたびよんで本のたび」というのは、今年「友達」をテーマとし、友達に関する絵本や物語を読み、本の世界を旅するというキャンペーンのものです。本の旅ですので、初めにA5判厚紙に印刷いたしましたパスポートを差し上げて、本を1冊読むと手づくりシールを1枚渡し、パスポートに貼っていくものでございます。平成23年度では、全館で1,603枚のパスポートを配付いたしました。本年度も多くの子どもたちが参加してくれると思っております。このように事業を通し、今後も図書館は、子どもたちが本と出会い、楽しく本を読むことのできるよう環境を整え、情報発信やPRをしてまいりたいと存じます。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。なかなか最近では、お子さんだけではなく、若い方も含めて本を読まなくなった傾向があると思いますが、こういう催しをしていただいて、少しでもその辺のところ読書好きの子が増えればいいなと思います。いかがでしょうか。よろしゅうございましょうか。

○委員（齋藤裕吉君） 参考のためにお聞きしときたいと思っておりますけれども、今、電子書籍というのが随分、ちまたではいろいろ話題といいまいしょうか、話題になっているほど普及しているかどうかというところはちょっとわからない、別かとは思っておりますけれども、図書館のほうではいかがなのでしょう。その扱いというか、試しに2～3台入れてありますとか、現時点ではそれは考えていないとか。その辺いかがですか。

○図書館長補佐（坪井茂美君） 電子書籍につきましては、やはり興味のある方もいらっしゃいます。昨年度の図書館での年2回行っております満足度調査の中でも、電子書籍について若

干ですが興味あるという方がいらっしゃるのも事実でございます。それを受けまして、やはりこれからいろいろ検討していかなければいけないと思っております。機械類であるとか、やはり機器類が必要でございますので、それについても研究しなければいけませんし、どのように貸し出しというか、提供していくかについては、今後検討していくつもりではおります。ただ、現在はまだ導入という具体的な時期までは決定しておりません。

以上でございます。

○委員長（久芳美恵子君） 今後検討ということでございますが、何かご意見いかがでしょうか。

○委員（齋藤裕吉君） 個人的には特に推進してほしいという意味で質問したわけではありませぬので。私個人的にはやっぱり紙でめくるというのがどうしてもそういう感覚が強いのですけれども、時代の変化というのもあるかなと思って質問させていただきました。ご検討いただければと思います。

○委員長（久芳美恵子君） ありがとうございます。ほかにいかがでございますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、報告・連絡の（13）子ども読書の日について了承いたします。どうぞよろしくお願いたします。

報告・連絡はこれですべて終了でございますが、その他、何かございますでしょうか。

ございませんようですので、教育委員の報告に移ります。



◎教育委員報告

○委員長（久芳美恵子君） 教育委員報告をお願いいたします。

○委員（崎山 弘君） まず崎山から報告いたします。

前回の定例会以降では、まず3月19日に中学校の卒業式、府中七中に私は行ってまいりました。個人的な話になります。うちの娘も七中の卒業生で、一つの節目というものを感じることができました。非常によい卒業式だったと思います。

3月23日は小学校の卒業式ですが、これは武蔵台小学校に行ってまいりました。武蔵台小学校は非常に小さい学校、府中市の中で一番小さい学校なので、卒業証書もらった後、将来の夢に関して、一人ひとりの皆さんが語る時間が設けられておりまして、自分たちは将来こうするということを言っているのは非常に印象的でしたし、非常に心強い、これからの日本をつくる子どもたちなのだなど感じられる子がかなり多く見受けられたのがよかったと思います。

3月31日なのですが、府中少年少女合唱団第29回定期演奏会を鑑賞してまいりました。メインは「美女と野獣」というミュージカルを行ったわけですが、子どもたちも一人ひとりがちゃんとソロのパートをしっかり歌っておりまして、これはしっかり練習しているなどということを感じると同時に、見事な舞台であったと感じました。

4月3日、辞令伝達式に出席しました。今年は例年よりも少し簡略化された形で、全職員ではなくて、前年までは異動のあった全職員が参加されておりましたが、校長先生、新任の先生方、かなり簡略化された形で終わったのですが、特に新人の新卒の先生はもう全員平成生まれということで、これは非常にこちらとしても時代を感じてしまったとともに、我々教育委員としても支援をして、府中市でよい仕事をしてもらいたいなと感じました。

私からは以上です。

○委員(北島章雄君) 北島より報告させていただきます。

3月16日、矢崎幼稚園の卒園式に出席いたしました。卒園する園児たちは、今まで見守ってきた家族、お世話になった先生に感謝の言葉を、そしてこれから1年生になる思いを園児全員で大きな声で発表しました。保護者の方々は園児の成長に喜びを感じておりました。とてもよい卒園式でした。

3月19日、第三中学校の第51回卒業式に出席いたしました。卒業式には来賓として地域の自治会、民生児童委員、青少対、同窓会と大勢の方々が卒業式に出席され、整然とする中、卒業式が行われました。その中ではやっぱり合唱は大変よかったです。送る在校生の歌、送られる卒業生の歌、そして全員合唱。出席された来賓の方々も感動されており、大変すばらしい卒業式が挙行できたなと思いました。

3月23日は、四谷小学校の第38回卒業式へ出席いたしました。やはり大勢の来賓の方々に見守られ、卒業式が挙行されました。卒業される児童の門出の言葉は、全員大きな声で、四谷小での6年間の思い出、そしてこれから最上級生になる5年生に心構えを話され、5年生は後を引き継いで立派な6年生になりますと答えておりました。田中校長先生も校長として、最後の式でしたが、とても立派な卒業式が挙行できたと思いました。

3月20日、中学生東京駅伝大会に行つてまいりました。味の素スタジアムで行われました。私は昨年出席できなくて初めてこの大会に行ったのですが、この大会の規模はいかに大きいかと、すばらしい大会だなと感心いたしました。これからも続いていくと思いますので、出場する選手に応援の意味を込めて、のぼり旗等の準備をお願いできたらと思いました。また、府中市の代表選手は本当に一生懸命頑張つて走つておりました。

3月27日、市史跡旧陸軍調布飛行場の白糸台掩体壕保存整備落成記念式典に出席いたしました。貴重な歴史遺産を見学し、また目の当たりにし、当時の時勢を感じました。つくられたセメント等が少なく、石ころが見えているような状況のものを見ますと、本当にこんなので向こうに勝てるのかなと思った次第でございます。

3月31日、やはり崎山委員と一緒に、府中少年少女合唱団第29回定期演奏会に出席しました。私も合唱団の最後の演目でしたが、ミュージカル「美女と野獣」はとてもよかったです。合唱団を卒業される団員の方々がフィナーレで涙している姿を見て、合唱団をやってよかったのではないかなというのを感じられた次第でございます。

4月6日、矢崎小学校の入学式に出席いたしました。新1年生が緊張している様子が見られ、また保護者の方々も緊張してその中にいるのがとてもほほえましく、子どもたちを応援している親の姿を見られた気がいたします。

4月9日、府中第三中学校の入学式に参りました。新入生の制服姿もりりしく、また担任による呼名も元気よく返事をしており、肅々と行われ、またこれから中学校が続く楽しい、また厳しい生活を送ってほしいなと感じました。

4月11日、矢崎幼稚園の入園式に参りました。このときはもう桜の花びらが舞つておりました。舞つている桜の花びらがとてもきれいで、写真撮影を、親が一生懸命撮つているのがほほ笑ましい風景で見えておりました。

4月10日、東京都市町村教育委員会連合会の会計監査に参りました。

4月13日、東京都の教育施策連絡会で都庁へ参りました。そして、都の教育委員のお話をお聞きした次第でございます。

以上です。

○委員（糸満純一郎君） それでは糸満からご報告をさせていただきます。

私も3月20日に中学校駅伝、応援に行っていました。大きな区市がある中で、府中市は本当に大健闘だったなと思いました。同じ日なのですが、グリーンプラザで、第四小学校のハーモニーブリーズの定期演奏会がございまして、指導の先生が異動になったということで心配していたのですが、後任の女性の先生も前任に負けないぐらいのすばらしいリーダーシップをおとりになっていてございまして、演奏も前年と変わらぬ高いレベルを維持していて、すばらしいと感じた次第でございます。

それから3月19日から3月26日まで、今年度、24年度の予算審議、予算特別委員会が開催されまして、最終的には3月28日の本会議で可決、成立をいたしました。その中で、先ほどもございましたが、いろいろな多くの議論がありましたので全部はもちろん言えませんが、中学校駅伝を見にきていただいた市議の中から、「のぼり旗が府中市は寂しかったね。何とかならないのか。」ということで、ある意味、教育委員会の応援をしていただくような質問もいただきまして。もう一つちょっと印象に残ったのは、「今、電子ゲームが大はやりだけれども、日本の伝統ゲームの碁・将棋も少し普及したらどうだ」と、教育長も碁を打つのでから少し考えてという話を言われてしまいましたけれども、私も同感でございますので、よく検討しますというお答えをいたしましたところでございます。

それから3月25日、早朝に、7時からですが、早起き野球連盟の開幕式、そして午前9時から府中市全体の野球連盟の開幕式がございまして、昨年は3.11の関係で、これらの開幕式、全部中止だったわけでございますけれども、今年はそういった去年のことを振り返りながら開幕式が無事盛会に行われたということで、感慨深いものがございました。

3月27日は白糸台の掩体壕落成式、私も参加をいたしまして、戦争の記憶が風化していく中で、子どもたちにとって本当によい教材になるのではないかなと感じた次第でございます。

3月28日は、府中ロータリークラブの50周年式典がございまして、出席をいたしました。

3月30日ですが、今年は31日が土曜日ということで、30日が事実上の年度末ということで、退職の発令がございまして、うちのほうの高橋前部長さんをはじめ、多くの部長さんがここで退任されました。昨年市議会議員選挙で若い議員さんが大勢当選されまして、またこの春には市長さんも交代されたということで、府中市も大きな転換期を迎えたなというような考えがございました。

4月1日の日曜日ですが、親子で狂言に親しもうということで、これは武蔵府中ロータリークラブのほうの仲介で実現したイベントでございますが、本当に本物といいますか、室町時代から続いているご本家の方が、若い方ですけれども、来ていただいて、子どもたちに本当にわかりやすく説明していただいて、実際に狂言も見せていただいたということで、本来であればしかるべきところに行って拝見しなければならないものを身近で見せていただいて、子どもたちもよかったなと思いました。

それから4月5日は、市民の交通安全の集いということで、私も出席をしていきました。

それから4月7日、8日、これは特に私のほうで仕事としてではないのですが、市民桜まつりに一般市民として参加しましたが、今年は本当に花がきれい、長持ちして、久しぶりにと
いいですか、ちょうどぴったりの時期に桜まつりができて本当によかったなという感想を持
った次第でございます。

以上です。

○委員（齊藤裕吉君） それでは、齋藤のほうから報告をいたします。

3月16日金曜日、午前10時から小柳幼稚園の終了式に出席をいたしました。教育委員会
としてお祝いの言葉を述べてまいりました。65名の卒園児、みんな元気で、しかも行儀がよ
くて、とても立派な修了式でした。

小1プロブレムというようなこともこのところ言われているのですけれども、この子ども
たちについてはそんな心配は全くないなと思いつつ、その修了証を受け取る姿を見守ってま
いりました。

3月20日火曜日ですが、私も第3回中学生東京駅伝大会、応援に行つてまいりました。都
の教育委員会主催ということで、子どもの体力向上東京大作戦の一環ということだったわけ
ですけれども、小・中学生の体力向上が一つの課題である本市にとっても意義のある大会だつた
なと思います。大変大健闘ですばらしい成績を上げておりました。

3月23日金曜日、私は新町小学校の卒業式に参列してまいりました。教育委員会のお祝い
の言葉を述べてまいりました。やはり子どもたちはみんなしっかりしていて、立派な卒業生
の姿を見せてくれました。ここで再任用も終了するという芳賀校長先生のお話は、三つの「わ」
を大切にというお話をなさっていました。平和の「和」と、つながり合う「わ」、車への「輪」
です。それから話し合うコミュニケーションの「わ」、「わ」というのは「はなし」というか、
ごんべんの「話」です。というお話を式辞の中でなさって、子どもたちに最後のご指導をして
いらつしゃいました。とてもすばらしい卒業式でした。

それから、3月27日火曜日、私も掩体壕の市史跡のテープカットの式に参加をしてまい
りました。やはり歴史史跡の現場に立つということ自体が、そこに立つてみるということ
で体を感じるものがいろいろあるなということ、このときも感じました。ここに当時の戦
闘機を格納していたのだなということ、現場で想像を働かせることができました。子ども
たちもそういう歴史的な現場に直接足を運んで、その場に立つて、それで想像力を働か
せて、ここであれば戦争と平和についてよく考えてもらえるようにしたいなということ
を思いました。

次、4月3日は、やはり府中市の辞令伝達式ということで、私も出席をさせていただきました。

4月13日金曜日、午後2時からですけれども、東京都教育委員会の平成24年度の教育
施策連絡会に出席をしてまいりました。各委員からそれぞれのお話がありました。都としま
すと、都の教育長は、都と各区市町村の教育行政は車の両輪であるから、ぜひそのよ
うな両輪がスムーズに回転するように進めてまいりたいというお話がありました。その
とおりのかなと思います。都の教育委員会の東京都教育ビジョンの話もございま
したけれども、それを聞きながら、府中市においても、府中市の教育プラン21、
平成25年度が完成年度ということなわけですけれども、それをしっかり遂行する
とともに、新しい計画ということもすぐに考えて検討をして、策定をしていかな
ければいけないのではないかなということも思いました。

以上です。

○委員長（久芳美恵子君） それでは、久芳よりご報告させていただきます。

卒園式、卒業式に関しましては、そのところの感想を述べさせていただきます。3月16日はみどり幼稚園でございました。恒例となっている卒園児から保護者へ証書を引き渡すということなのですが、どちらかという子どもよりも保護者のほうが緊張して、喜びの度合いが多いな、大きいなということをととても感じました。本当に親は感動するだろうなという印象を持ちました。

3月19日、浅間中でございます。式の終了後、保護者の方々が校舎から校門まで両わきに立ち並んで卒業を祝っている姿が非常に感動的でした。

3月23日、南白糸台小学校でございます。卒業生一人ひとりが大きな声で返事をして、証書をもらう所作も大変立派でございました。その卒業生に一人ひとり、本当におめでとうと声をかけていた、ここで再任用を終了なさる奈良校長先生ですが、大変うれしそうだったということが印象的でした。また、式辞の中で、奈良校長先生はご自分が教員になった2年目のころのエピソードを話されました。それは農家のお子さんが黒くごつごつしていた母親の手を嫌うというその子に、母親の手はだれよりも働き者の手だと、奈良校長先生が自作の詩をおつくりになったそうです。その自作の詩を子どもに対して読んで聞かせてあげたところ、子どもが母親への温かい思いを取り戻したという趣旨の内容でございました。非常にお話自体、校長先生が新任に近いころに子どものことを思って、本当に一生懸命なさっていたということが、こちらにも伝わる感動的なシーンで、大変心温まる式でございました。

入学式は4月6日に第三小学校に行かせていただきました。先ほど来、印象を話した子どもたちとはちょっと違うのですが、三小の1年生は、日常と非日常の区別がつけられない子が何人かいて、緊張感というのが感じられない。本当に5～6人の子なのですが、その子たちがそういう感じで足をふらふらしたり、隣の子をつついたりして、あらあらと思っていましたら、とうとう校長先生のお話の途中、一番前に座っていた男の子が「校長、何か言った」と声をかけまして、さあ、校長先生どうするかと思ったら、もう落ちついた感じで、「はい、言いましたよ」と言って、すらっと何もなかったかのようにお話を続けていらっしゃいました。とうとう新入生もこういう感じになったのかなと非常に驚きました。

でも、そういう新入生の1年先輩の2年生が歓迎の歌と合奏を披露した時にはみんなじっと食い入るように見ておりました。これはやっぱり子どもだと、ちょっと安心したところがございます。

4月13日、ご報告ありましたように、教育施策連絡会に私も参加いたしました。齋藤委員の報告に加えて、私として、教育委員一人ひとりからお話を伺った中で、3名ほどちょっと印象を述べさせていただきます。

木村委員長は外国でのお話をするときに使ったかなりなデータをお示しになられて、子どもの学習意欲が低いと言われているけれども、その原因は何だろうかということをお話しになったわけです。それは大人の知的好奇心の低さだとおっしゃっていました。日本の大人の人たちが、木村委員は理科がご専門なので、理科の分野でということの限定的でしたけれども、大人の方が、知的好奇心が非常に低いと、データを示しておっしゃっていました。やはりそれが子どもの学習意欲の低さに連携しているのだと。でも、自分としてもどうやったらいいのか対策

が全然わからないとおっしゃっておいででした。

内館委員、たった1人の女性の委員でございますが、内館委員はこの大震災を経験して、子どもたちのたくましさを感じたとおっしゃっておられました。被災地に何度もお通いになっているということ。また、当日もお話が終わった後、被災地にいらっしゃるということで中座なさいましたが、子どもたちのたくましさを感じたそうです。それに引きかえ、政府の人材のなさに本当にショックを受けたとおっしゃっていました。かなり辛口のことをおっしゃる方ですが。そして教育では全体を押し上げるということは大事なことだけれども、それともう一つ、エリート教育の必要を非常に痛感したとおっしゃっていました。エリート教育という言葉にかなり反発する方もいらっしゃいますけれども、それは人材育成なのだということで、私もアメリカにおりましたときに、ジュニアハイスクールだから中学校で、特別学級というのが2種類ありました。一つはいわゆる発達障害等のおくれのあるお子さんに対する特別教育。もう一つは優秀児に対する学級なわけです。結局、その一人ひとりの子どもの能力に応じてということで教育はされるわけですが、日本の場合にはどちらかという通常のある程度平均的なところに焦点が当たって、今は特別支援教育といって支援が必要なお子さんに対する教育はかなり充実していますが、いわゆる偏差値の高い子に対する公教育というのははっきり言ってなされていらないわけです。都立の高校の場合には少し特化され、数学に特化するとか、何に特化するとかの高校ができておりますが、いわゆる能力の高い子に対する教育というのが不十分というか、なされていないのがやはりそれは問題ではないかと。彼女が言うには、悪しき平等主義のためにそうなっていると。やはりこの震災を経験して、本当にいわゆるエリートをつくり出していくというのは、国の責務ではないかというようなかなり激しい口調でおっしゃっていらっしゃいました。それはやはり政府の委員会に入って、政府の策のなさ、それが人材のなさにつながっているということを実感なされたからの言葉であろうかなと思いました。

もう1人、川淵委員、サッカーの前チェアマンの方ですが、その方が、今、子どもが身体的な発達に影響がかなり出ていると。それは何かというと外遊びをしない。家でばかりゲームなどで遊んでいる。その外遊びをしないことの悪影響ではないかとおっしゃっていらして、2002年からスポーツの楽しさを幼児に伝える、そういう活動を全国的に始めたというお話をしていらっしゃいました。

いろいろご報告したいことはたくさんございますが、齋藤委員のご報告に加えて、こういったような委員の方々のお話がございました。

以上でございます。

それでは、これにて平成24年第4回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。どうぞご協力ありがとうございました。



午後4時41分閉会